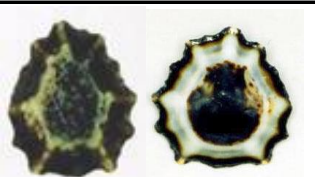
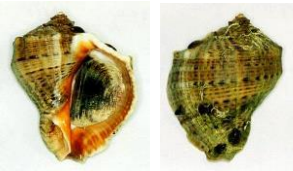


 森と海の自然科 近木川・男里川河口域 生き物調査							年	2019		2020		2021年8月25日	
							月	7	10	8	10	指導 児嶋 格 先生 山田 浩二 先生	
							日	4	10	6	1		
No.	門	綱	目	科	和 名	学 名	写 真	近木川	男里川	近木川	男里川	備 考	
1	軟体動物門	多板綱	新ヒザラガイ目	クサズリガイ科	ヒザラガイ	<i>Acanthopleura japonica</i> (Lischke, 1873)		●		●		体は楕円形で平たく、背中には一列の8枚の殻(殻板)がある、殻からの周りは肉帯という筋肉で囲まれ、トゲや鱗で覆われる。腹側は吸盤で這う。潮間帯の岩礁に付着する。はがされるとダンゴムシのように丸まる防御姿勢を取る(別名「ジイガセ(爺が背)」の語源)。体長5cm~10cm。膝皿貝(ひざさがいい)が語源か。	
2				ケハダヒザラガイ科	ケハダヒザラガイ	<i>Acanthochitona defilippii</i> (Tapparone-Canefri, 1874)		●				潮間帯にいる。岩の上やくぼみに生息。新ヒザラガイ目共通で殻板は8枚。それぞれの殻板のそばにトゲのかたまりがある。はがされると身体を丸めることも他のヒザラガイ類と共通。体長3cm。	
3				ウスヒザラガイ科	ヤスリヒザラガイ	<i>Lepidozona coreanica</i> (Reeve, 1847)		●				潮間帯から潮下帯の転石下に張り付く。他のヒザラガイ類より殻板の幅が広い。殻板の表面に縦の筋が多数あり、ヤスリ状になっている。体長3~7cm。	
4		二枚貝綱	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i> (Adams and Reeve, 1850)		●	●	●	●	潮間帯や遠浅の砂泥地に生息。殻高は2.5cm、殻長は3.5cm、殻幅は1.5cmほど。殻は横長の楕円形で厚く、よく膨らむ。殻表面は粗い布目状となっている。その模様や色の変化は極めて多様である。	
5				マルスダレガイ科	ヒメアサリ	<i>Ruditapes variegata</i> (Sowerby, 1852)					●	アサリより小型であるための名。とくに殻幅が薄い。潮間帯~水深5mの外洋に面した岩礁域の岩、石などの間の砂地。アサリと違い生息数が少なく漁獲対象ではない。しかし、海水で砂出しをし、よく洗った上で、水から煮込んでみそ汁にすると大変美味。	
6				シジミ科	ヤマトシジミ	<i>Corbicula japonica</i> (Prime, 1864)		●				河口の汽水域の砂底に生息。殻は丸みを帯びた三角形で、よく膨らむ。殻頂は高い。殻皮は光沢のある黒色。殻長約3cm。	

7	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	イワホリガイ科	セミアサリ	Claudiconcha japonica (Dunker, 1882)		●	●	●	殻長3cm。潮間帯～水深10cm。柔らかな泥岩・サンゴやゴカイの棲管の群塊などのすき間に住み着く。外形は不規則なことが多い。右殻が左殻より大きく、かつ左殻を抱き込むような形になる。
8				チドリマスオ科	クチバガイ	Coecella chinensis (Deshayes, 1855)		●	●	●	殻長2.5cm。長楕円形。潮間帯上部の砂～砂礫底に生息する。殻は黄褐色の殻皮に被われる。内面は白色。
9				フナガタガイ科	ウネナシトマヤガイ	Trapezium liratum (Reeve, 1843)			●	●	殻長4cm。長楕円形。殻はやや薄く、膨らみは弱い。表面は平滑。汽水域の潮間帯の礫やマガキなどの殻に足糸(そくし)で付着する。
10			フネガイ目	フネガイ科	カリガネエガイ	Barbatia virescens (Reeve, 1844)		●			殻長5cm。中潮帯から低潮帯の岩礁のすき間に足糸で付着する。殻は白く膨らみは弱い。成長脈は周期的に強くきざまれる。殻皮は周辺で厚く、毛状になる。
11			イガイ目	イガイ科	ホトトギスガイ	Musculista japonica (Dunker, 1857)		●	●	●	殻長2.2cm。薄質で扁平。殻皮は緑褐色。足糸でからまって群れ、海底に敷き詰めたように集団で生活している。内湾の潮間帯から水深10mまでの砂泥底。
12					クログチガイ	Xenostrobus atratus (Lischke, 1871)			●	●	殻長1.5cm。やや薄質でやや扁平。短く高い。殻皮は黒紫色で平滑。潮間帯上部から中部にかけての岩やマガキに着生。イワフジツボと混生すること多い。
13					コウロエンカワヒバリガイ	Xenostrobus securis (Lamarck, 1819)			●	●	殻長2～3cm。殻皮は黒紫色で平滑、光沢がある。オーストラリア方面が原産。1970年代後半に日本に定着。発見された西宮市の香櫨園浜にちなみ、菊池典男氏により命名。内湾の潮間帯から水深10mまでの護岸やカキ殻などに付着。

14	軟体動物門	二枚貝綱	ウミタケガイモドキ目	オキナガイ科	ソトオリガイ	Laternula (Exolaternula) marilina (Reeve,1863)				●		殻長5cm。これよりほかに長い水管を出す。水管は完全に殻の中に収まらない。殻は薄く半透明でよく膨らむ。ちょうつがいの上下に細い縦筋が通る。潮間帯から水深20mまでの砂泥底。ソトオリは「衣通(そとおり)」が語源か？
15			カキ目	イタボガキ科	マガキ	Crassostrea gigas (Thunberg,1793)		●	●	●	●	殻高15cm。殻長15cmの長楕円形を基本とするが、固着する対象により殻形は変化する。汽水性内湾の潮間帯から潮下帯の砂礫底によくカキ礁を作る。マガキガイ(高腹足目ソデボラ科)という貝は別種。 <u>マガキガイ(殻長6cm)→</u>
16					ケガキ	Saccostrea kegaki (Torigoe & Inaba,1981)		●		●		殻高5cm。殻長8cmの小型のカキ。不定形であるが基本は楕円形。小さい時は殻周縁が紫色に染まり、パイプ状突起が顕著である。潮間帯から潮下帯の岩礁や岩壁に付着し群生する。
17					イワガキ	Crassostrea nippona (Seki,1934)		●	●			殻高12cm。殻長は20cm以上になる。長楕円形で厚質。殻頂(殻のてっぺん)で岩に着く。殻の周縁や表面には突起はないが、何枚もの薄い板をを重ねたような構造となっている。食用。潮間帯から3mの岩礁。
18		腹足綱	カサガイ目	ツタノハガイ科	マツバガイ	Cellana nigrolineata (Reeve,1839)		●				殻長6~8cm。巻貝の仲間。大型のカサガイ類で、表面は平滑で、青っぽい灰色のスジと灰色地に赤かった色の細い帯がある。網目模様になることもある。潮間帯の岩礁。夜間の活動時間が長い。
19					ヨメガカサ(ガイ)	Cellana toreuma (Reeve,1854)		●		●		殻長4~6cm。マツバガイより背が低い。殻は細長く表面が放射状の細い筋がある。模様は変化にとんでいる。潮間帯の岩礁。潮の満ち引きに従い、波打ち際を上下に移動する。

20	軟体動物門	腹足綱	カサガイ目	ユキノカサガイ科	ウノアシ (ガイ)	Patelloida saccharina (Linnaeus, 1758)		●	●	殻長3.5cm。殻は厚く殻頂部は強く浸食される。殻表には7～10本の強い肋(ろく・稜)があり、周縁部で突出して、鳥の「鵜」の水かきのついた足に見立てられる。潮間帯の岩礁。潮が満ちた波打ち際を動き回って藻類を食べ又元の場所に戻る。	
21					コウダカ アオガイ	Nipponacmea concinna(Lisc hke, 1870)			●	殻長3cm前後。正円に近い楕円形。殻頂は前端よりにある。殻表に放射線状に顆粒列が並んでいる。貝殻の裏側は薄青い。殻表は全面暗緑色のものと黄褐色の斑点の出るものと2タイプがある。潮間帯の岩礁上部。昼間は岩陰に隠れている。	
22					クモリア オガイ	Nipponacmea nigrans (Kira, 1961)				●	殻長2cm。殻長は前方にかたよりやや高い。殻の表面には放射状の筋(放射肋)が密に並ぶ。殻の模様は固体により多様。潮間帯半ばの岩礁のすき間や転石の下にいる。
23					コモレビ コガモガ イ	Lottia tenuisculpta (Sasaki & Okutani, 1994)		●			殻長1.3cm。殻表には均一な太さの細肋が全面にある。黒褐色白の地色に白い放射彩色彩を基本とするが、変化が多い。潮間帯岩礁下部に住む。フジツボと共に生息している。
24					シボリガ イ	Patelloida signata (Pilsbry, 1901)				●	殻長15mm以下。殻口が楕円形の低い円錐形。白地に褐色の放射線が約8条のびる。殻内面は白色。潮間帯の岩礁。
25					基眼目	カラマツガイ科	キクノハ ナガイ	Siphonaria sirius (Pilsbry, 1894)		●	●
26	カラマツ ガイ	Siphonaria japonica (Donovan, 1824)		●			●	殻長1.9cm。潮間帯上部、岩礁。殻長約1、5cm。本種も肺呼吸。殻は笠形で灰色、内面はこい褐色で、ふちは黄色。表面に15本ほどの放射状の肋がある。キクノハナガイとともに、潮が引いた後しばらくの間動き回り、また元の場所(いわば家)に戻る。肺呼吸。			

27	軟体動物門	腹足綱	中腹足目（盤足目）	タマガイ科	ツメタガイ	Glossaulax didyma (Röding, 1851)		●			●	殻長5cm。ツメタガイの仲間は卵と砂を粘液で固めて「砂茶碗」とよばれる茶碗形の卵嚢を作る。→アサリなどの二枚貝を捕食する。獲物を捕まえると、やすりのような歯舌を用いて獲物の殻頂部を削り、2mm程度の穴をあけて軟体部を食べる。 	
28				カリバガサガイ科	シマメノウフネガイ	Crepidula onyx (Sowerby, 1914)		●				本来は北米原産の外来種。殻長3cm。殻表がほとんど平滑で不規則な褐色斑や縞がある。アワビ類やアカニシ。アズマニシキなどの生きた貝類の殻の上に付着し、排泄物などを食べる。	
29				ムカデガイ科	オオヘビガイ	Serpulorbis imbricatus (Dunker, 1860)		●				殻幅は5cm。巻き貝の仲間であるが、殻の一部あるいは大半を岩盤に付着させ、トグロを巻いた状態で成長する。殻口から粘液の糸を出して餌をからめ取りこむ。潮間帯の岩礁。	
30				タマキビガイ科	アラレタマキビ	Nodilittorina radiata (Souleyet in Eydoux & Souleyet, 1852)		●	●	●		殻長8mm。小型だが殻は堅固。タマキビより上の、波当たりの強い潮間帯の最上部。飛沫帯に住む。潮が満ちてくるとそれに追われるように岩を這い上がり、潮が引くと濡れている間に下りてくる。	
31					タマキビ	Littorina brevicula (Philippi, 1844)					●	●	殻長1.5cm。殻はソロバン玉形。殻表には3殻5本の強い螺肋が走る。表面の模様には個体差があり、多様性がある。潮間帯の岩礁。活動は冬に活発で、夏は夏眠という形で岩の隙間でじっとしている。
32					マルウズラタマキビ	Littoraria (Palustorina) articulata (Philippi, 1846)		●	●	●	●		殻長1.5cm。殻は褐色色で、螺層の膨らみは強く、細かいウズラ模様がある。縫合はくびれる。転石・テトラポットに着生。河口護岸壁の裂け目などにも付着。
33			新腹足目	アツキガイ科	アカニシ	Rapana venosa (Valenciennes, 1846)		●				●	殻長10cm。殻口の内面が赤みを帯びている。30mより浅い砂泥底。アツキガイ科の巻貝の鰓下腺（パープル腺）から得られる黄緑色の分泌物は、日光で紫色に変化し安定する。強い臭素を含んでいるが、古代から世界各地で貝紫の染料とされていた。→次のイボニシの説明図参照

34	軟体動物門	腹足綱	新腹足目	アツキガイ科	イボニシ	Thais (Reishia) clavigena (Küster,1860)		●	●	●	●	殻長3～5cm。転石・テトラポットに着生。口縁は黒い。岩礁のフジツボ類や二枚貝に穴を開けて肉を食べる。6月～8月、岩の下に群れて卵のうを産みつける。 右は「三重県水産図解」(明治16年)の海女。護身符として頭かぶりに貝紫でセーマン ☆ やドーマン 𠂔 を染めていた。 	
35					イボニシの卵	Thais (Reishia) clavigena (Küster,1860)		●					
36				ウミニナ科	ウミニナ	Batillaria multiformis (Lischke,1869)		●	●	●	●	殻長3.5cm。干潟や潮間帯の砂泥底に群がっている。泥の上を歩き回り、表面の有機物や藻類など食べる。口が張り出す。	
37					ホソウミニナ	Batillaria attramentaria (G.B.Sowerby I, 1855)			●		●	殻長3cm。海岸の砂泥地や岩礁に生息する。ウミニナより細長い。ウミニナと違って浮遊幼生にならず子貝になる。貝殻の色は灰色や黒褐色で縫合に沿って白い彫刻のようなものがある。潮間帯の砂底。ウミニナより低い潮位にすむ。	
38				ムシロガイ科	アラムシロ(ガイ)	Reticunassa festiva (Powys, 1835)		●				●	殻長1.5～2cm。潮干狩りの時に砂浜を歩いている姿を見かける。殻の色は黄色に近いクリーム色。溝の部分は黒い。殻のいぼはやや大きめ。河口干潟などの砂泥底にすむ。粗いムシロのような外見からの和名。ムシロガイ類は代表的な死肉食性で「海の掃除人」。
39				フトコロガイ科	ムギガイ	Mitrella bicincta (Gould, 1860)		●					殻長10mm。殻は細くとがり円筒形。表面は平滑でやや光沢がある。褐色のしまなど模様は変化が大きい。殻口は立てに細長くやや開く。潮間帯から潮下帯の岩礁に着く。
40			古腹足目	ニシキウズガイ科	イシダタミ	Monodonta confusa (Tapparone-Canefri,1874)		●	●	●	●	殻高2cm。殻の表面に、石だたみのような模様が出るのでこの名がある。潮間帯の中部域の岩礁に普通に見られる。波打ち際には岩の表面に出て活発に摂食活動をし、干潮時には岩陰に隠れる。	

41	軟体動物門	腹足綱	古腹足目	ニシキウズガイ科	クロツケガイ	Monodonta neritoides (Philippi, 1849)		●	●	●	殻高1.5cm。イシダタミより小さく、背が低い。表面がなめらか黒地に細かい赤と緑の斑点がある。潮間帯の岩礁。
42				コシダカガンガラ	Omphalius rusticus (Gmelin, 1791)		●		●	殻高2.8cm。転石・テトラポットに着生。殻はクボガイよりも色が薄く灰色。うねは太く、へそ穴は丸く深く開く。 クボガイ→ 	
43				サザエ科	スガイ	Lunella coreensis (Récluz, 1853)		●	●	●	殻幅は2.5cm。サザエを丸く小さく平たくしたような形。サザエのように硬く厚い石灰質の蓋をもつ。その蓋のふくらんだ方を下にして酢に浸すと、酸で蓋の石灰質が解ける時にCO ₂ の気泡を出し回転することから、酢貝(すがい)と呼ばれた。潮間帯の岩礁。
44			アマオブネガイ目	アマオブネガイ科	イシマキガイ	Clithon retropictus (Martens, 1879)		●	●	●	殻長1～3cm。殻は丸みが強くてよく膨れ、螺塔は低い。幼生は海で育ち、幼貝になると川をさかのぼり、淡水にすむようになる。河川の河口から中流域の岩礁。岩の表面の藻類を食べる。
45			盤足目	カワサンショウガイ科	クリイロカワサンショ	Angustassiminea castanea (Westerlund, 1883)			●	●	殻長4.5mmと小型で円錐形をしている。黒っぽい茶色で光沢がある。河口干潟や内湾ヨシ原内の転石の間に生息する。
46					翼舌目	イトカケガイ科	イナザワハベガイ	Alexania inazawai (Kuroda, 1943)			

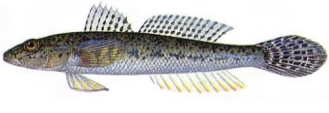
47	軟体動物門	腹足綱	吸腔目	キバウミニナ科	フトヘナタリ	Pirella nipponica(A. Adams, 1855)			●	●	殻長4cm。口吻が全体的にクリーム色のまだら模様をしている。河口の汽水域の干潟に砂泥底やヨシ原に生息。殻頂が消失していることが多い。徒然草34段「甲香は、ほら貝のやうなるが小さくて口のほどの細長にして出でたる貝のふたなり。武蔵国金沢といふ浦にありしを所の者はへなたりと申し侍るとぞ言ひし」。
48				トゲカワニナ科	タケノコカワニナ	Stenomelania rufescens (Martens, 1860)			●	●	殻長5cm。カワニナ類と似ているが、別のグループ。熱帯域にたくさんの種類がいる。河口に近い河川の砂泥底。砂泥中の有機物を食べる。汽水域の小石混じりの砂泥地。
49			異旋目	トウガタガイ科	カキウラクチキレモドキ	Brachystomia bipyramidata (Nomura, 1936)				●	殻長5mm。乳白色で黄褐色の殻皮をかぶる。潮間帯の干潟や岩礁のマガキの体液を吸う。
50	節足動物門	顎脚綱	無柄目	フジツボ科	タテジマフジツボ	Balanus amphitrite (Darwin, 1854)		●	●	●	直径1～2cm。殻表はなめらかで、暗紫色の縦縞模様がある。潮間帯～水深50cmの岩礁。岩に固定し、6対の白い蔓脚でエサを集める。外来種。
51					シロスジフジツボ	Balanus albicostatus (Pilsbry, 1916)			●	●	直径2cm。殻口は広く、ほぼ五角形。各殻板は灰褐色ないし暗紫灰色で、数本の太い白色の縦走肋をもつ。内湾性で、特に河口付近の岩礁や栈橋の橋桁などに群生して固着し、低塩分濃度によく耐える。本州各地から台湾、中国に分布する。
52			有柄目	ミヨウガガイ科	カメノテ	Pollicipes mitella (Linnaeus, 1758)		●		●	大きさは3～4cmが普通だが、7cmに達する個体もいる。形がカメの前足に似ている。潮間帯岩礁の割れ目に群生し、波によって運ばれてくる餌を紫色を帯びる蔓脚を拡げて捕食する。 <u>蔓脚を拡げたカメノテ</u> → 

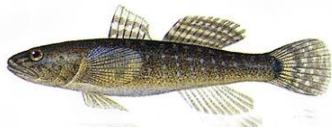
53	節足動物門	軟甲綱（エビ綱）	等脚目	フナムシ科	フナムシ	<i>Ligia exotica</i> (Roux, 1828)		●				体長5cm。体は平たく、多くの節にわかれ、7対の歩脚がある。頭部には長い触角と大きな複眼があり、尾部には2つに枝分かれした尾脚が1対ある。熱帯から温帯の海岸に広く分布し岩場をすばやく走り回る。泳ぎは上手だが水中で過ごすことはない。
54			十脚目（エビ目）	オサガニ科	オサガニ	<i>Macrophthalmus abbreviatus</i> (Manning & Holthuis, 1981)				●		甲長17mm、甲幅35mmまで。甲の長さが幅の2倍ほど。横長で四角い。眼柄が白くて長い。オスのハサミにツブツブがある。水通しのよい内湾や砂質底に生息。
55				オサガニ科	ヤマトオサガニ	<i>Macrophthalmus japonicus</i> (De Haan, 1835)				●	●	甲長30mm、甲幅40mmまで。横長で四角い。眼柄が長い。河口の泥干潟にすみ斜めの巣穴をほる。泥の中の有機物を食べる。ウェイビングは、ハサミが目の高さまでしか上がらず、かつ開かない。（ヒメヤマトオサガニのウェイビングは、ハサミが高く上がりかつ開く、万歳型。）
56				コメツキガニ科	コメツキガニ	<i>Scopimera globosa</i> (De Haan, 1835)		●		●		甲長9mm、甲幅10mmまで。内湾や河口干潟の砂質・砂泥底に生息。干潟で最も一般的なカニ。養分をこし取った砂泥をだんごのように丸めて巣穴の周りにばらまく。目が飛び出している。
57				モクズガニ科	モクズガニ	<i>Eriocheir japonica</i> (De Haan, 1835)					●	甲幅は8cm、体重180gほどに成長する。ハサミ長い毛が密生し、藻屑に見えることから和名。河川の河口から中流域。秋に河口に下り幼生を海に放つ。初夏に稚ガニが川を上る。食用で有名な「上海蟹」の同属異種。日本各地で食用にされている。
58					アシハラガニ	<i>Helice tridens</i> (De Haan, 1835)				●	●	甲長22mm、甲幅25mm程度。全体的に緑色をおびた褐色でハサミ脚は黄色をおびている。河口域に生息して、アシ原に巣穴を掘る。
59					ヒメアシハラガニ	<i>Helicana japonica</i> (K. Sakai & Yatsuzuka, 1980)					●	甲幅20mm程度。アシハラガニよりも小さく、また、短くてやわらかい毛が前から3または4本目までの脚に生えている（アシハラガニは2本目まで）。

60	節足動物門	軟甲綱（エビ綱）	十脚目（エビ目）	モクズガニ科	ヒライソガニ	Gaetice depressus (De Haan, 1833)		●	●	●	甲長20mm、甲幅25mm程度。岩礁域の転石場に多い。イソガニに比べ甲が平坦で、色彩や模様の変化に富む。口元の顎脚を使って水の中から有機物をこし取る特異な採餌を行う。雄はハサミが大きい。子どもには甲に白い斑文がある。
61					ケアシヒライソガニ(仮名)	Gaetice sp.		●			ヒライソガニよりやや小型。甲の背面が平たく歩脚に短い毛が生えているのが特徴。
62					イソガニ	Hemigrapsus sanguineus (De Haan, 1835)		●			甲長31mm、甲幅38mm程度。磯で普通に見られるカニでオスのハサミの根元に柔らかいふくろのようなものがついている。ヒライソガニより甲に膨らみがある。
63					ケフサイソガニ	Hemigrapsus peniciliatus (De Haan, 1835)		●	●	●	甲長30mm、甲幅35mm程度。オスのハサミの又に毛のふさがある。オス・メスともに裏側の腹の上部を中心に小さな黒斑がある。 
64					タカノケフサイソガニ	Hemigrapsus takanoi (Asakura and Watanabe, 2005)		●			甲長30mm、甲幅35mm程度。ケフサイソガニよりハサミの毛のふさが大きい。また腹部にある斑点が少ない。 
65				コブシガニ科	マメコブシガニ	Pyrhila pisum (De Haan, 1841)		●			甲長15mm、甲幅15mmほど。甲は丸く、中央が盛り上がり、表面につぶつぶがある。干潟にいるコブシガニの仲間。前に向かって歩く。

66	節足動物門	軟甲綱（エビ綱）	十脚目（エビ目）	ベンケイガニ科	カクベンケイ（ガニ）	Parasesarma pictum (De Haan, 1835)		●	●	●	甲長23mm、甲幅26mm程度。甲羅はわずかに横長の四角形で、縁に歯はなく全体的に褐色。クリーム色のまだら模様がある。岩礁やアシ原に生息し、海水の影響が強い場所に多い。
67					ユビアカベンケイ	Parasesarma tripectinis (Shen, 1940)			●	甲幅15mmほどで、カクベンケイガニより小型。和名通り鉗脚(ハサミ)の先が赤い。甲は扁平に近い。黄褐色の体色。、汽水域の砂泥干潟やヨシ原に生息するクシテガニとよく似ていますが、クシテガニはハサミ全体が赤っぽいのに対して、本種はハサミの先だけが赤い。	
68					ヒメベンケイガニ	Nanosesarma minutus (De Man, 1887)		●		甲長6mm、甲幅7mm程度。甲の前縁中央部に深い窪みがある。前縁には眼後歯に切り込みがある。潮間帯の岩礁や貝類の間に生息する。干潟でも外洋側のカキ殻の間でも見つかる。	
69					フタバカクガニ	Perisesarma bidens (De Haan, 1835)		●		甲長23mm、甲幅26mm程度。ハサミがオレンジ色に見えるものが多い。甲羅の横に切れ込みがある。汽水域の水辺にある転石の下や石積のすき間に隠れている。	
70				スナガニ科	ハクセンシオマネキ	Uca lactea (De Haan, 1835)		●	●	●	甲長12mm、甲幅20mmまで。ハサミは白く、片方が巨大化。それを白い扇(白扇)に見立てられての和名。ウェイピングで大きなハサミを大きく振り回す。その姿が潮を招くと見立てられた。干潟や河口域に生息。
71					シオマネキ	Uca arcuata (De Haan, 1833)			●	●	甲長25mm、甲幅35mmまで。ハサミや脚は赤色を呈する。片方のハサミが巨大化。内湾や河口干潟のアシ原や泥地に生息。巣穴の上に土を積み上げえんとつ状にする。有明海沿岸の郷土料理「がん漬」の主要材料。
72					ワタリガニ科	ガザミの脱皮殻	Portunus trituberculatus (Miers, 1876)		●		

73	節足動物門	軟甲綱（エビ綱）	十脚目（エビ目）	ホンヤドカリ科	ホンヤドカリ	Pagurus filholi (De Man, 1887)					●	甲長5～15mmの小型のヤドカリ。甲背、脚とも緑褐色だが、脚の先端が白く(赤矢印)「白足袋を履いている」と言われる。はさみ(鋏脚=第1胸脚)は右側が大きい。人目に付きやすい第二触角は濃淡の縞模様となる(青矢印)。
74				ホンヤドカリ科	ユビナガホンヤドカリ	Pagurus minutus (Hess, 1865)			●	●	●	甲長5～15mmの小型のヤドカリ。灰緑褐色。歩脚は毛でおおわれている。はさみ(鋏脚=第1胸脚)は右側が大きく、表面に小さな顆粒が密にある。第2・3歩脚は指節(一番先)が前節(指節のすぐ下の節)よりも長く、これが和名「指長」の由来。
75				テナガエビ科	スジエビモドキ	Palaemon serrifer (Stimpson, 1860)		●	●	●	●	体長4cmまで。イソスジエビに似るが、黒褐色の縞がイソスジエビよりまばらで、腰部分のベルト状の赤い縞が特徴。
76				□アナジャコ科	ヨコヤアナジャコの脱皮柄	Upogebia yokoyai (Makarov, 1938)				●		ヨコヤアナジャコは体長5cmまで。陸奥湾(青森県)から八重山諸島の西表島(沖縄県)に至るまでの海岸や河口域の干潟に広く分布する日本固有の種。干潟の泥のなかにY字型の巣穴を掘り生活する。
77	海綿動物門	普通海綿綱	イソカイメン目	イソカイメン科	ナミイソカイメン	Halichondria panicea (Pallas, 1766)		●				形は不規則で塊状。全面に細かい粒状の突起が発達する。潮間帯から水深550mの中深層まで広く分布し、岩や石の陰や窪みに着生する。体の色は黄緑色している。水中の植物プランクトンを食べる。
78				イソカイメン科	クロイソカイメン	Halichondria (Halichondria) okadai (Kadota, 1922)		●				本州中部以南の潮間帯の岩場で最も普通に見られる海綿。表面に大小様々な孔の空いた突起を生じ、凸凹している。体色は黒。体の中にフジツボが住んでいる事がある。
79	棘皮動物門	ヒトデ綱	叉棘目	キヒトデ科	マヒトデ	Asterias amurensis (Lütken, 1871)		●				幅長15cm。「キヒトデ」「ムラサキヒトデ」「アムールヒトデ」とも呼ばれる。黄色の身体に青紫色の模様があるが、色や模様は個体差が大きい。湾内だけでなく外洋に面した砂地の浅瀬にも生息。基本的にアサリを襲って食べるのでアサリの産地などでは駆除の対象となっている。

80	棘皮動物門	ナマコ綱	イカリナマコ（無足）目	イカリナマコ科	ヒモイカリナマコ	Patinapta ooplax(von Marenzeller, 1882)					●	●	体長十数cm、径5mm。干潟の泥の中に生息。浮遊していることが多い。ヒモイカリナマコツマミガイ Hypermastus lacteus という殻高3～5mmの貝が寄生することがある。 ヒモイカリナマコツマミガイ→ 
81	環形動物門	多毛綱	定在目	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイの巣(棲管)						●		カンザシゴカイは、環形動物門多毛綱定在目カンザシゴカイ科Serpulidaeに属する種類の総称。頭端にある鰓冠(さいかん)の一部が変形してできた殻蓋(かくふた)をかんざしに見立てて名づけられた。虫体はいずれも石灰質の管の中にすみ、殻蓋で管の入口をふさいで身を守る。
82	環形動物門	貧毛綱	新貧毛目	フトミミズ科	イソミミズ	Pontodrilus litoralis (Grube, 1855)		●					体長10cm、体幅2mm内外。腹面に挟着器を持つ海産のミミズ。体節約100。環帯は13～17節ある。岩石に覆われた磯のような環境には生息しないことから「ハマミミズ」という名が、よりふさわしいという説がある。
83	脊索動物門	条鰭綱	スズキ目	ハゼ科	ミミズハゼ	Luciogobius guttatus (Gill, 1859)		●			●		全長5～10cm円筒形。頭は押しつぶされたように平たい。体色は、濃緑褐色。ヌルヌルとした粘膜で覆われる。ヒレは、丸みをおびる。鱗がない魚で小さなウナギかドジョウのような外見。河口の汽水域石や砂の間にいる、肉食でゴカイ、ヨコエビエを捕食する。
84					ウロハゼ	Glossogobius olivaceus (Temminck et Schlegel, 1845)		●		●			体長20cmを超えることもある大型種。洞鯊(ウロハゼ)。東アジアの内湾や汽水域。夏が旬でハゼの天ぷらにされる事が多い。利用法はマハゼとほぼ同様で、唐揚げ、天ぷら、刺身などで食べられる。
85					マハゼ	Acanthogobius flavimanus (Temminck et Schlegel, 1845)					●		体長15cm。旬は秋から冬にかけてとされる。美味な白身魚で、天ぷら、唐揚げ、刺身、吸い物の椀種、煮付け、甘露煮などいろいろな料理で食べられる。秋になると近木川はハゼ釣りのメッカとなる。

86	脊索動物門	条鰭綱	スズキ目	ハゼ科	ヒナハゼ	Redigobius bikolanus (Maeda, Saeki, and Satoh, 1927)				●		最大体長4cmの小型種。汽水域から淡水域に生息。体長9cm前後のヒメハゼ(右図)とは別種。 
87					チチブ	Tridentiger obscurus (Temminck et Schlegel, 1845)				●		体長8cm。他のハゼ類と比較して太く短い体形をしている。河口域や河川下流部の礫や転石、テトラポッドなどの周辺に生息。ムナビレの根元は黄色
88					ドロメ	Chaenogobius gulosus (Guichenot, 1882)		●				体長12cm。上から押しつぶされたように平たい頭と大きな口をもつ。尾びれが白くふちどられることが特徴。ごく浅い岩礁域(数mまで)、岩礁性海岸の潮だまりに生息。成魚は海底にいるが、幼魚は水中を群れて動く。
89			フグ目	フグ科	クサフグ	Takifugu niphobles (Jordan and Snyder, 1901)					●	体長10～25cm。背中が草色。体中にテトロドキン(ふぐ毒)を持つ(筋肉の毒性は弱い)。投げ釣りやうき釣りなどでよく掛かり、外道の代表として嫌われている。
90	緑藻植物門	アオサ藻綱	ミル目	ミル科	ミル	Codium fragile (Suringar) Hariot (1889)		●				低潮線付近に生える。体はフェルト状で、二またの枝分かれをくり返して、末広がりになった形。緑藻。高さ10cmから30cm。
合計								55	31	36	45	